

## 私の故郷

福岡大学 朱 暁熙

ハルビン市（哈爾濱 中国語:哈尔滨市、英語:Harbin）は中国最北部に位置する黒龍江省の省都で、中国東北部の経済・文化の中心のひとつであり、東北経済地区で第二の都市です。黒龍江省の政治・経済の中心です。市名の由来は、白鳥を意味する満洲語、<sup>へいち</sup>平地を意味するモンゴル語、<sup>えいよ</sup>榮譽を意味する<sup>じょしん</sup>女真語などの諸説があり定まってはいません。



ハルピン（哈爾濱）は北緯44度・東経125度に位置します。黒龍江省の西南部東北平原の東端にあり、大陸性気候に属します。市の総面積は1,843.2平方キロメートルで、総人口約950万人、そのうち中心部の面積は約163.7平方キロ、人口は約570万人です。19世紀末まで小さな漁村にすぎなかったハルピンが劇的な変化をしたのは、<sup>せいちょう</sup>清朝と帝国ロシアの不平等条約により開始された東清鉄道の建設が始まりであるといえます。その帝政ロシアの支配の下、人口は急激

に増えていきハルピンは近代都市として大きな変貌<sup>へんぼう</sup>を遂げました。20世紀初頭には秋林公司や馬迭爾<sup>ひんかん</sup>賓館といった現在でも有名な欧風建築が数多く建てられました。商業地や住宅地に限らず風格のある西洋古典式・ビザンティン式・ゴシック様式・アール、ヌーヴォー様式・アールデコとモダニズム・中華バロック式（西中折衷式）シベリヤ様式・イスラム様式などのさまざまな名建築物が建てられ、現在でもこれらの欧風建築物が残っているため、ハルピンは東方のモスクワ、東方の小パリなどと呼ばれています。また移民都市であるため、市内に住む人々は非常にきれいな標準語（北京語）を話します。近代都市としての歴史はまだ短いですが、日本とハルピンとの関係は深いと言えます。ハルピンに日本人が増えたのは、日露戦争が始まった1904年ころで、この頃には日本人の人口が1000人を超え、1909年にはハルピン駅で伊藤博文<sup>いとうひろふみ</sup>が暗殺<sup>あんさつ</sup>されるという事件も起きました。

哈爾濱市は大陸性気候風気候のため四季がはっきりしています。夏は短いですが、気候が穏やかで避暑地<sup>ひしよち</sup>として適しています。しかし、冬は長く気温は低く、スケートなどの冬季<sup>とうき</sup>スポーツをするには適しています。11月～3月までの平均気温はマイナス5℃～20℃ととても寒いですが、夏の7月、8月の気温は22℃前後ととても過ごしやすい季節になります。

中国東北部に位置する黒竜江省の都市ハルビン市、夏と冬の寒暖差<sup>かんだんさ</sup>の非常に厳しい気候で、1月の平均気温がマイナス18.6度、世界で最も寒い大都市の中に入ります。最低気温はなんとマイナス40度の極寒<sup>ごっかん</sup>、ただ雪はほとんど降らないことで氷の町と呼ばれているそうです。冬のハルビン市では、毎年1月5日頃から「ハルビン氷祭り」が開催されています。1985年から始まった氷祭りのスケールの大きさは世界的に有名です。







